

宿根草花アスチルベの株の長期冷蔵や低温処理 による10月～6月出し栽培法

園芸研究所

1 背景、目的

アスチルベは、露地季咲きでは6月に開花する宿根草です。花色が豊富であることから花壇や鉢物に利用されていましたが、最近は品質保持剤の利用により、切り花の日持ちが改善されたことから、切り花としての新たな需要が期待されています。

そこで、アスチルベの株の長期冷蔵や低温処理によるいくつかの作型を開発し、それらを組み合わせて長期間にわたって切り花を出荷できる栽培技術を確立しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 10月から翌年2月にかけて出荷するためには、前年の12月に株を掘り上げて、 -2°C の冷蔵庫内で8月下旬から10月下旬まで長期冷蔵し、出庫後温室内に定植して夜間最低気温 10°C で栽培します。
- 2) 株を冷蔵庫に入庫する際は、コンテナに湿らせたオガクズ（オガクズと水の容積比16：1）に株を埋め込み、コンテナ全体をポリエチレンフィルムで包みます。
- 3) 2月から4月に出荷するためには、9月下旬から11月上旬に株を掘り上げて 2°C の冷蔵庫内で5週間から7週間低温にあわせた後、11月上旬から12月上旬にかけて温室内に定植して夜間最低気温 10°C で栽培します。
- 4) 4月から5月に出荷するためには、10月に株を定植し自然の低温にあわせた後、早生品種では1月下旬、晩生品種では2月上旬からビニル被覆して夜間最低気温 10°C で栽培します。

3 主要なデータなど



写真1 アスチルベの花

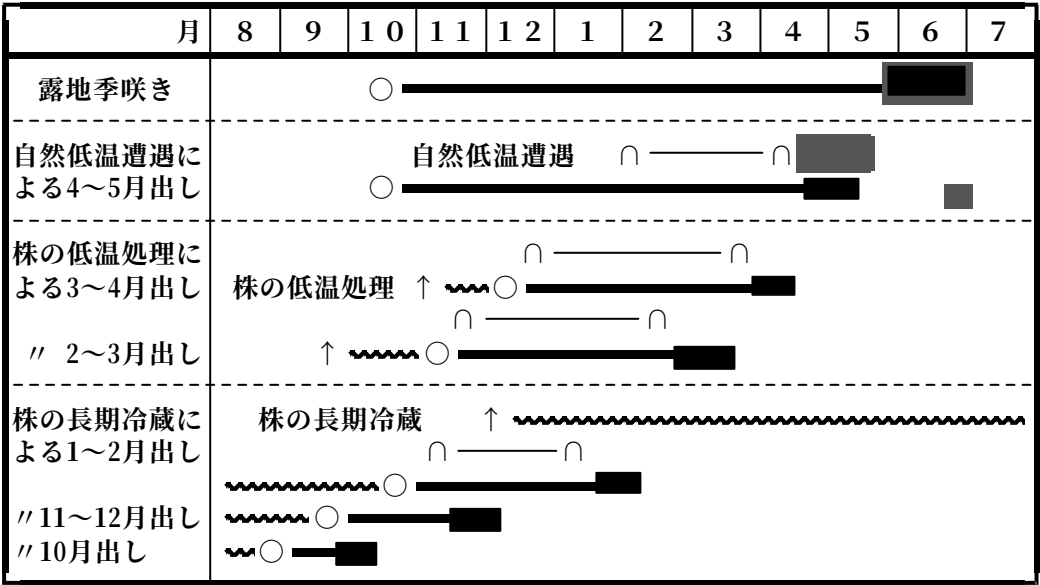


図1 アスチルベ切り花の10～6月出し栽培

注) ↑:株の掘り上げ、○:定植、■:収穫、〰:加温、〰:株の低温処理または長期冷蔵

